

近現代史に関する調査・研究 のまとめ

一般社団法人燕三条青年会議所
2014年度近現代史委員会

目次

序章	過去の近現代史を振り返る	1
第1章	戦中戦後から学ぶ近現代史 (歴史教科書問題)	4
第2章	戦中戦後の近現代史から 学ぶ・皇室の重要性と役割	16
第3章	日本とトルコの歴史的友好関係からの学び (まとめにかえて)	28
あとがき		43

序章 過去の近現代史を振り返る

2010年の加藤修央先輩が担当した近現代史実践委員会から4年振りに燕三条JCに近現代史委員会が設けられました。私たちはまず、過去先輩方が残してくれた燕三条JC近現代史の足跡を辿りました。

2007年度近現代史委員会 当時委員長：星野里美先輩

年間目的

近現代史における、日本人として誇るべき正しい歴史を学び、先人の熱い理想を知る。

また、ここで得た歴史認識を広めるため、委員会メンバーが自らの言葉で率先して自分の思いを語り、LOMメンバーへ伝えていく。

代表的事業

・委員会セミナー 2007年10月実施

「おじちゃん、教えて！家族で話そう、ニッポンのこと」 10月実施

内容

中條 高德(なかじょう たかのり)氏講演会

日本の歴史への関心や理解を深める為に戦前～戦後を生き抜いた人に、その時代の日本人の思いを実体験をふまえて語ってもらう。それを聞くことで先人に感謝し、家族に歴史を伝える第一歩とする。

2007年度近現代史委員会

【先人の思いを知り、語り、伝える】

おいしいちゃん、教えて！
家族で話そう、ニッポンのこと

中條 高德 講演会

10月25日(木)
18:30受付 19:00開会
※リサーチコアAF
マルチメディアホール
入場無料

日本を心から愛し、
まっすぐな子供を育てる温かい声——。
あのロングセラーの著者が心から伝える、
ニッポンと、家族のものがたり。

中條の伝記『おじちゃん、教えて！』は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。中條は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。中條は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。

中條の伝記『おじちゃん、教えて！』は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。中條は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。中條は、戦時中から戦後にかけての歴史を、中條の視点から語ります。

2010年度近現代史実践委員会 当時委員長:加藤修央先輩

年間目的

日本の近現代史を通し、消し去られた日本人としての誇りを取り戻すことで、その時代を生きた先人の歩みの中から倫理・道徳を修得し、「日本精神」を心得た日本人となりうる環境を設え、知識だけを得るのではなく、見識・胆識ある人格となる為の人づくり事業を構築し実践する。

代表的事業

・近現代史検証に関する講演会 2010年3月実施

日本人としての誇りを取り戻す為に、近現代史に興味を持ってもらう為に LOM内近現代史認識レクチャーフォーラムと題し、参加メンバーでのディスカッションと、その内容となる歴史的事実を、委員会メンバーがプレゼンテーションを行う。その後講師(東條由布子氏)より講演をもらう。

・近現代史実践の為の例会 2010年10月実施

胆識ある日本人となるための一助とする為に、台湾論のプレゼンテーションとドキュメンタリー映画「台湾人生」の上映及び、歴史認識に関する講師酒井充子(さかいあつこ)氏 映画監督「台湾人生」講演会

・機動戦士ガンダムからみる分りやすい近現代史
地球連邦軍ガンダムVSジオン公国軍 シャア

2010年度近現代史実践委員会

【正しい歴史を学び、胆識ある人となる】



諸先輩から受け継がれてきたキーワード
日本人としての「誇り」

2014年度近現代史委員会

年間目的

自国に対する誇りが希薄化している現状を踏まえ、我われが戦中戦後の歴史を学び、日本人としての誇りを抱いたうえで、市民に語り繋げる。

2014年度近現代史委員会では

日本人としての誇りとは何だろうかと先人らの行動を学び、近現代史を学ぶ大切さをLOMに伝えてきました。

失われた日本の古き良き伝統・規範・礼節を重んじる倫理道徳観や日本人としての精神文化や価値感を見つめ直し、明るい豊かな社会を作っていく為に、次の世代に伝える我われ大人たちが率先して自国の歴史を学び、国家観を築きあげ、愛国心を育み、日本固有の価値観や継承されてきた伝統を評価できる国民意識の醸成を図り、燕三条JCから市民に繋げたく本資料を作成しました。

私たちは自国の歴史を何で知るでしょうか？それは教科書です。第1章では近年問題視されている歴史教科書問題の根源について説明致します。第2章は明治・大正・昭和と終戦までにおける各時代の天皇の役割と立場の違いについて説明致します。第3章は日本人の誇るべき「利他の精神」について日本とトルコ友好のエピソードを説明致します。

第1章 戦中戦後から学ぶ近現代史



歴史教科書問題

来年戦後70年を迎える年になりますが、未だ多くの日本人が日本の近現代の歴史について詳しくありません。

この原因はどこにあるのか？

根本的には教育の問題です。

大東亜戦争に始まった、歴史教科書問題や、天皇の役割等、聞いたことはあるけど、良く解らなかつた事を、紐解いていきます。

歴史教科書問題って、、、



近隣諸国に弱腰なイメージが、、

歴史教科書問題と聞いて、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。

日本の歴史教科書に対して、中国や韓国が非難をする、注文をつける、日本はただ煮え切らない態度で批判を甘受するばかり、、

このようなイメージだと思います。

2つの対立する歴史観、、、

【自虐史観】



「私はなんて、悪いことして
しまったのでしょうか！！
恐ろしや恐ろしや、、、
アジアの国々の皆さん、
侵略して誠に申し訳
ございましたえ～んでした！！」

【皇国史観】



「日本は戦争に追い込まれ、
天皇陛下のもとに
東アジアと東南アジアの
独立の為に戦ったのだ！」

一方、国内に目を向けると対立する2つのグループ、2つの歴史の見方が存在します。

1つはメディアを通してよく耳にする「自虐史観」という歴史観を持つグループ、歴史家達です。自虐史観は簡単に言えば支那事変、大東亜戦争は単なる植民地獲得の為に侵略戦争であり、当時、欧米諸国が東アジアの国々を植民地化する為に侵略したのとなんら変わりはないとする考え方です。

もう一方は「皇国史観」という歴史の認識を持つグループ、歴史家です。この歴史観は戦後、正統史観という言葉で言い表されるようになります。大東亜戦争は、天皇のもとでは人々は全て平等であるという考えのもと、また、東南アジアを欧米の植民地支配から解放する為に戦ったのだとする考え方です。

GHQ(アメリカ)による占領統治、占領政策



GHQ ダグラス・マッカーサー元帥

「アメリカに2度と戦いを挑んで
こない
ようにしなければならん。」
=日本国のキバを抜くのだ！

「日本国民の一部をアメリカに同調させ占領政策を容易に進め、日本VSアメリカの戦いだったことから目をそらさせて、日本の軍国主義が皇国史観を敵とみなすように思想工作、洗脳する。
そして、アメリカ流の文化、政治、社会体制を定着させ、親米国家にするのだ
ハツハツハツ！！」

日本は1945年(昭和20年)8月14日にポツダム宣言を受諾、8月15日天皇の玉音放送により敗戦という形で終戦を迎えました。敗戦国となった日本に対してアメリカを中心とするGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)は占領政策を進めていくこととなります。この時のアメリカの最大の目的は何だったのでしょうか。

それは、“日本のキバ”を抜くことにありました。戦前、東アジアにおいて存在感を高めていた日本を脅威に感じ、日本が2度とアメリカに対し戦いを挑んでこないようにしたのです。日本国民の一部を同調させアメリカ流の文化、政治、社会体制を定着させ、親米国家にする狙いが背景にはあったのです。

大日本帝国憲法⇒日本国憲法

労働法規制定

財閥解体

正統史観を持つ人々を公職から追放

そして、教育法も、、、

日本に対する数々の改変、、、

そのような狙いをもったアメリカはあらゆる分野において日本を改変して
いきます。

国の基本法である憲法を替え、労働法を変え、皇国史観をもった人々を
公職から追放します。

そして、教育法をも変え、教育改革をスタートさせます。

「国史」の廃止 ⇒ 日本史



改変される
日本の教育、、、

戦前最後の国定教科書
いわゆる「**皇国史観**」で綴られている

教育改革の一つが国史の廃止です。国史には先の皇国史観に近い内容で書かれており、戦争に関しては決して侵略戦争ではなく、天皇のもとで東アジアの安定のためにアジアのリーダーとして戦った戦争であるというよう日本の歴史の正当性が記述されていました。その国史が廃止され、名称も国史から“日本史”に変更させられました。これにより、自分たちの国の歴史という強い気持ちの薄れ、どこか客観的に第三者のような目で自分たちの国の歴史をみるよう感覚が植えつけられてしまったのではないのでしょうか。

GHQによる「焚書」

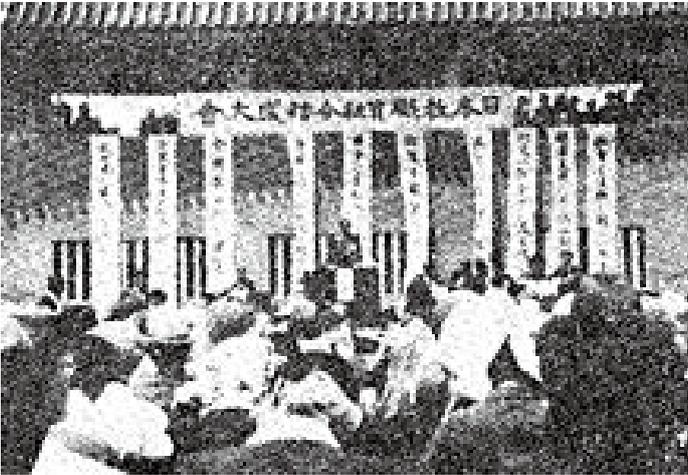


国会図書館法を制定しGHQ焚書を実行。

国史の廃止とともに連合国に対し不利な記述や軍国主義的な記述がある書籍の出版、販売が禁止、いわゆる“焚書”が行われました。

急ぎ対応が必要なものは写真の教科書のように黒塗りされました。

教員組合の結成



日教組結成大会 檀原神宮

日教組の誕生、、、

日本国憲法/教育基本法の理念を日本人学童/学生に押し付ける組織として教員組合の結成を指令した(後の日教組)

前述のような教育の伝道者として、自虐史観をもった教師に対し、積極的に組合組織を結成することを奨励し、そのような流れの中で日教組が誕生します。

その後、日教組を中心とした自虐史観に基づいた教育が始まり、現在に至ります。

歴史教科書問題の発端

「侵略」を「
進出」に書
き直し？謝
罪しろおおお
！！



まあ、まあ、
今後は中国
と韓国に配
慮して教科
書作ります
から。



この時の謝罪が後々大きい禍根を残すことに、..

そして、1982年6月26日、決定的な事件が起こります。

歴史教科書の検定において、当時の文部省がある教科書の中の“華北への侵略”という記述を“華北への進出”に書き直しを命じたと、某テレビ局の担当記者が報道し、全マスコミも一斉に報じ、文部省を非難しました。

7月30日、時の小川文部大臣が書き換えを命じた事実をないことを明らかにしたにもかかわらず、中国では日増しに抗議活動が過熱し、ついには8月26日、当時の宮沢官房長官が書き換えを命じた事実はないことを説明しないまま中韓両国に謝罪しました。

それだけではなく、その年の11月、教科書検定時に近隣の国（中国、韓国）に確認を受けるという規定、近隣諸国条項をも設定しました。

歴史教科書問題は便利な切り札...!?



対日外交カード

「このカード持ってる？
日本がいいなりになる
とても便利なカードなのお♡」



対日外交カード

「持ってるに決まってるじゃん
うちはもう何十年と使ってるけど、
便利過ぎて手放せないよねえ、、、」

大きな遺恨を残す 歴史教科書問題

その後はご存知ように、近隣の国は日本に対して、歴史教科書問題を有効な外交カードとして使い続けています。日本はその度に大きく国益を損なっています。

結びに代えて

日本は大東亜戦争で1回目の敗戦をしました。

そして、、、

1982年8月26日、2回目の敗戦をしたのではないのでしょうか。

他国の干渉なくして、自国の歴史を語れない、、、これは敗戦に等しいと我々、近現代史委員は考えます。

最後にこの言葉で、第1章を終わりにしたいと思います。

取り戻せ、日本の矜持を！

第2章 戦中戦後の近現代史から学ぶ 皇室の重要性と役割

皇国主義史観、マルクス主義史観の2つで、大きく考え方が異なっている、当時の天皇陛下の役割を説明したいと思います。明治天皇から始まる近代国家の天皇は1889年に設立された大日本帝国憲法の中で記載されています。

分かり易く言うと大臣の決めた事に許可をする権限が大半を占めており、実質的な権限はほとんどありませんでした。

国務大臣は天皇の玉爾(判子)を持って自分の作ったものを国の決まりとする権限しか持っていませんでした。

「どうしてこの様な権限しかもっていなかったか?」「天皇はもっと偉いんじゃないか?」と皆さん思っていないですか。

国会を開設するにあたって天皇は当時、皇室の権限をすべて国に返すという詔を出して国に権限及び土地をすべて提供しています。それに伴って大日本帝国憲法の中でこれらの権限を残しています。

しかし、「決定権を持っているもののどれ程の決定権が強かったのか?」と言うエピソードがあります。

日清戦争開戦

明治天皇は、首相であった伊藤博文に戦闘停止を命じる



当時から天皇は、政府の決定に拒否権を持たず
(それが具体的に確定したのは、日清戦争時である)

日清戦争での開戦時のエピソードです。

開戦時、当時の最大権限者は内閣総理大臣だった伊藤博文でした。
そして伊藤博文は清との戦争をする事を決めます。

それに対し、明治天皇は「清国とは争うべきではない」「国同士の争いは戦争をもって解決してはならない」と言う詔を出しますが、伊藤博文はそれを拒否して戦争を始めてしまいます。

つまり天皇は自分の考えを貫く事は出来ても国を動かすは出来なかったのです。

これは天皇は国事の決定権をもっていなかったことを物語るエピソードの1つです。

天皇による国策の決定

天皇による国策決定は終戦の御聖断のみである(昭和20年)

実際に天皇が国策の決定を下したのは昭和20年、終戦の御聖断のただの一度だけでありました。

それ以外の天皇の言葉は詔か御製(和歌)で天皇の考えを示すことしか出来ませんでした。しかし、この事はごく一部の人間しか知らず国民は一切知りませんでした。ただ、和歌を見る限り天皇は心から戦争を回避し平和を望んでおられました。



ニ・二六事件

、、、昭和天皇は、青年将校らの行動をただちに 国家への反乱軍と断定

権限の無かった天皇は国民にとってどんな存在だったのかということを知るエピソードがあります。それが ニ・二六事件です。

簡単な概要説明は当時、国のやり方に気にいらなかった軍の将校が、国の重要な決定権を持っていた大臣達を次々に暗殺していった事件です。しかしこの事件は天皇が詔を出してから一夜にして収まります。天皇が将校達に「あなた達がやっている事は国を乱す行為です。今すぐ軍隊を解散し地元に戻りなさい。」と言うと将校達は「天皇のお言葉なら従わなければならない。」と納得し地元に戻って行きました。

先程の立憲君主制という言葉がありました。日本は当時、国家神道という言葉を使っていました。国家神道を分かり易くいうと日本という神社がありまして神様が天皇、宮司が大臣、参拝者が国民の構図だと、天皇は大臣にとっては絶対ではありませんでしたが、国民にとっては神様のお言葉に聞こえました。天皇は当時の国民にとって絶対神という考え方でした。

象徴天皇制とは？

鳩が平和の象徴の様に日本と日本国民の象徴は天皇と言う事です。

天皇の地位

日本は立憲君主制をとる国の1つと見られ天皇は諸外国から君主として扱われる

敗戦からその絶対的な神の権限を無くしたかったのがGHQの方針でした。GHQは国家神道から象徴天皇制へと変えました。象徴天皇制とは先程の神社の例えで表すと天皇が宮司で国民が参拝者です。天皇は基本的に式典を取り仕切るだけの存在になってしまいました。これを象徴天皇制と言います。

日本は立憲君主制をとる国の1つと見られ、天皇は諸外国から君主として扱われています。



日本国憲法における天皇の立場

天皇を日本国と日本国民の象徴(第1条)

その地位を今後もあり続けられるか否かは主権のある日本国民の総意に基づいて決定される(前文、第1条)

国会の議決する皇室典範に基づき世襲によって受け継がれる(第2条)

天皇の職務は、国事行為を行うことに限定され(第7条)内閣の助言と承認を必要とする(第3条)

国政に関する権能を全く有さない(第4条)

立憲君主制は日本だけの国家体制だったのでしょうか？

立憲君主の国はたくさんあります。

その代表となるのが英国です。

英国は首相と女王がいます。実際に女王はどれだけの政治の権限を持っていたのかと言うと「許可」する権限しかありませんでした。

当時、日英同盟を日本と組んでいましたがその英国をまねて立憲君主制を取り入れて天皇の位置を格付けしました。

英国の女王も今と同じ形です。

現在の天皇と比べてみて下さい。戦争の責任は天皇にあると言われてますが、実際に権限がなく責任は持てるのでしょうか？そうすると答えが見えてくると思います。

天皇の国事行為

国会の指名に基づく内閣総理大臣の任命
内閣の指名に基づく最高裁判所長官の任命
憲法改正、法律、政令及び条約の公布
国会の召集
衆議院の解散
国会議員の総選挙の施行の公示

国務大臣や、その他の官吏の任命の認証
外国への全権委任状、派遣する特命全権大使・特命全権公使の信任状の認証
大赦、特赦、減刑、刑の執行の免除及び復権の認証
栄典の授与
批准書、条約など外交文書の認証
外国の大使、公使の接受
儀式を行うこと

天皇の国事行為は基本的には衆議院の解散、国会の召集といった国の代表が決めた政治の許可です。現在の天皇制は皇室典範に書かれていますが基本的には国の決めた事に任命を行う事です。天皇の権限は戦前と戦後ではあまり変わりません。GHQが手を入れても別格の存在であり続けました

★帝国憲法における天皇の権限は、これを行使しないことが慣習となっていた。

新旧憲法における差異



実質的な差異は少ない

マッカーサーが語る天皇陛下、、、



GHQが天皇についてどう思ったのかを説明します。

昭和21年に天皇とマッカーサーが二人で並んで立っているととても有名な写真があります。実はこの写真は国民にとってはとても衝撃的な事でした。国民が天皇の姿を観たのが史上初めてのことだったからです。

皆さんが観ている明治天皇は全て絵で表されていました。それはなぜか？

公卿と国務大臣以外は天皇の前に立つことはもちろん、姿を見ることも許されない時代だったからです。

そのため、国民にとっては非常に衝撃だったと言われています。因みにこの時にマッカーサーは初めて天皇と話します。

実はマッカーサーは天皇を侮辱する為にこの写真を撮らせ掲載しました。ところがマッカーサーは10年後、米国に帰って国会で演説した際、「天皇は日本国民にとってとても大切な存在だ」と演説しています。その理由は天皇の対談記の中に書かれています。

マッカーサーは天皇に、「あなたが戦争を反対する事を本当に願っていたのならなぜあなたは戦争を止める事が出来なかったのか？」と訊ね、それに対して天皇は「国民は非常に私の事が好きであった。私の為なら何でもしてくれる。もし、私が戦争を反対すると言えば反対したかも知れない。

もしそれをしてしまったら陸軍のトップや陸軍の将校が私を監禁したり、殺してクーデターを起こす可能性もある。

もしそうなった場合、先の見えない実力行使の戦争になってしまうと判断して私は止める事が出来なかった。」という天皇の決して目先ではなく、先を見通しての発言を聞いたマッカーサーは、天皇は日本にとってとても大切な存在と実感をして象徴天皇制の制度をとって残します。

天皇は当時の日本にとっては高貴な存在でした。例を挙げるなら一般の人が天皇の前に座って御辞儀をし「おもてを上げ」と言われれば角度で15度しか上げられませんでした。

その位、天皇の存在は高貴でした。

天皇は心から平和を望んでいてただ権限が無かった為に戦争を回避出来なかった事もまた事実です。

-完-

第3章 日本とトルコの歴史的友好関係 からの学び



はじめに

近現代史委員会は、戦中戦後の歴史を学ぶ過程で、先人達が如何に日本の事を考え、行動に移してきた結果、今日の我々の生活がある事を知りました。

先人達の築いてきた歴史や、いくつかの逸話の中から、今を生きる我々が誇りを持てる生き方として、近現代史委員会は『利他の精神』を取り上げます。

過去から現在に至る、トルコと日本を繋ぐ友好の架け橋を渡した、先人達と宮崎淳氏の話を紹介いたします。

エルトウルル号事件



- n 日本とトルコの国交に大きな影響を与えた「エルトウルル号事件」をご存知でしょうか。
日本とトルコとの友好的な国交を象徴する有名な史実ですが、その背景には、様々な思惑があったものの、事件後は単純に「友人と助け合う」という共通の想いを抱くきっかけとなった事件でした。単に過去の出来事ではなく、現在の両国の友好的な交流に繋がっているのです。
- n この事件の発端は当時のオスマントルコ帝国より初の親善訪日使節団としてのエルトウルル号の来航からでした。

1890年6月に日本に到着したエルトゥールル号は出向以来、蓄積し続けた艦や乗員の消耗、資金不足に伴う物資不足が限界に達していました。

また、多くの乗員がコレラに見舞われたため、到着3ヶ月後になってようやく出港の目処を見つけました。

船の修繕、補強も充分でなく、応急的なものであったと考えられます。そのような状況から、日本側が台風の時期をやり過ぎよう勧告するも、オスマン帝国側は、その制止を振り切って帰路についたのです。



無理を押し、強行出航した結果、エルトゥールル号は危惧していた通台風の影響を受け、紀伊大島、檜野崎(現在の串本町)沖岩礁への突事故を起こし遭難します。

乗員約600名が海に投げ出され、通報を受けた檜野の住民たちは総出で救助と生存者の介抱にあたったと言われています。

この時、台風により出漁できず食料の蓄えもわずかだったにも関わらず、住民は衣類や食料、非常用のニワトリすら供出するなどして生存者たちの救護に努めました。

この結果、収容された69名が生還することができましたが、その一方で、587名は死亡または行方不明となり、大惨事となったのです。



懸命な救助と多くの義援金 しかし、またその裏には、、

事件を伝えられた神戸港に停泊中だったドイツ砲艦「ウォルフ」が島に急行し、生存者は神戸に搬送、病院に收容された。知らせを聞いた明治天皇は政府に対し可能な限りの救助を行うよう指示し、発生から2日後、各新聞は衝撃的なニュースとして伝え、義援金を募る。外国人のための義援金募集は初めてのことだったが、現在の貨幣価値に換算して7千万円以上もの多くの義援金が寄せられた。

これは、開国時に結ばれた不平等条約を改正するために、日本には外国人を救助するだけの経済力があることをアピールする日本側の狙いもあったといわれている。



串本町にあるエルトゥールル号の慰霊碑

彼方のトルコの人にも響いた、、、日本人の利他の心

事件はオスマン帝国内に大きな衝撃を読んだが、当時の政権下では人災としての側面は覆い隠され、天災による殉難と位置付けられ、新聞で大きく報道されるとともに、遺族への弔慰金が集められた。またこの時、新聞を通じて大島村民による救助活動や、日本政府の尽力が伝えられ、当時オスマン帝国の人々は遠い異国である日本と日本人に対して、好印象を頂いたといわれている。

現在串本町の檜野崎灯台そばにはエルトゥールル号殉難将士慰霊碑およびトルコ記念館が建ち、現地の住民により慰霊の式典が行われている。

イラン・イラク戦争勃発、、、



時代は下り1985年(昭和60年)のイラン・イラク戦争において、イラクの大統領サダム・フセインは5年前から始まったこの戦争の長期化にしびれを切らし「3月20日PM2:00以降にテヘラン上空を飛ぶ飛行機は軍用、民間関わらず全て撃墜する」と布告。

イラクには約300人の日本人が取り残され、日本の外務省は日本航空に救護機派遣を求めたが、「帰路の安全が確保されていない」ことを理由に派遣を見合わせた。

テヘランの日本大使館の野村豊大使は日頃から親交のあったトルコ大使館のビルレル大使に窮状を訴えると「トルコ人なら誰もがエルトゥールル号遭難の際に受けた恩義を知っています。ご恩返しをさせていただきます。

トルコが民間機を2機チャーターし、危険を顧みず215名(その他は自力で出国)の日本人全員を乗せリミットギリギリにトルコ領空へ救出された。この時、トルコ国民は飛行機は日本人へ、自分たちは陸路を使い脱出している。

その時歴史が動いた、、、



元駐日トルコ大使のネジアティ・ウトカン氏が、次のように語っています
「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がなしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。私も小学生のころ、歴史教科書で学びました。トルコでは、子供たちでさえ、エルトゥールル号のことを知っています。
今の日本人が知らないだけです。それでテヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空が飛んだのです」95年後のトルコの恩返しでした。

この2つの出来事は、100年近くも時を隔てていますが、人々の善意や感謝の心によって、しっかりと結びついているのです。

東日本大震災の発生



平成23年(2011)3月11日に発生した東日本大震災において、世界の20を超す国々が救援隊を日本に派遣。彼らは被災地に入り、行方不明者の捜索・救助や、がれきの撤去作業、医療活動などに精力的に携わっている。しかし、深刻な原発事故も起こる中、福島第一原発の事故の深刻さが明らかになると、撤収を選択する国が続出。

しかしそのような中、各国からの救援隊の中では最長となる3月19日から4月8日までの約3週間、宮城県石巻市、多賀城市、七ヶ浜町など被災地の現場に踏み止まり、最前線で活動を続けてくれた国がトルコだった。

トルコ東部大地震発生



東日本大震災の後の2011年10月にもトルコ東部で大地震が発生しましたが、日本政府が緊急支援を行い、さらに日本のNGOも現地で救援活動を展開しました。この時、「難民を助ける会」に所属していた宮崎淳さんという方が救援活動に参加していました。

宮崎さんはイスラム教徒でもないのに、儀式に参加したり、ラマダン明けの牛肉を配り歩いたりと、医師としての活動以外に被災者に寄り添い、心の傷を癒す事も大事にしていました。

海外のボランティア団体が撤退する中、自らの意志で単身トルコに残りその後も被災者の為に尽力を尽くしました。

利他の体現者の悲しい死、、、



しかし、宿泊中のホテルが余震で倒壊し、死亡してしまいます。この出来事がトルコ全土に伝わり、丁重な弔意が各地から寄せられました。後にトルコ国内の黒海に臨む公園に「ミヤザキ・パーク」と名付け、宮崎さんの銅像を設置することになります。

宮崎さんが亡くなった東部ワン市の大学内の診療所や高校の実験室、イスタンブール市の防災用の公園など、既に複数の場所に宮崎さんの名前が付いているという事実は、トルコのために尽くし、命を落とした日本人、宮崎さんへのトルコ国民の想いを感じます。

引き継がれる利他の心



さらに11月にワン県にて複数の被害の出た余震があった後、串本町当時町長は「トルコとは121年前から大変深い絆で結ばれている。他人事ではない」とし、募金箱を設置。また多くの日本人が日本のトルコ大使館の郵便ポストへ義援金を送付している。

その背景には、危機に際し命がけで助け合った日本とトルコの歴史がある。「恩を忘れない」「困った時には助ける」

そんな人として最も大切な「真心」で結ばれた時、時代も国境も越えた友情を紡ぐことが可能になるのです。



トルコ人が公的な場で日本人に対して日土友好の歴史について語るとき、必ずと言っていいほど第一に持ち出される話がエルトゥールル号の話です。一方、対して日本においては事件近くの串本町以外では、あまり記憶されておらず、長らく公的な場で語られることすらもまれでした。

しかし、近年では小学校4年生の道徳の教科書に記載されて一部の小学校では教えられるようになっており、また、中学生のある歴史の教科書にも掲載されるようになってきています。これは、時が経つにつれ薄まってきた当たり前とされてきた「友人を思いやる気持ち」「困った人がいれば助けよう」という日本人の美德とされてきた精神、利他の精神、を伝える考えからだと思います。

余談ではありますが、韓国では日本がエルトゥールル号を襲い韓国が救った話で伝えられています。我々は知らないままの認識でいいのでしょうか。



この弾幕は2014年サッカーワールドカップで、トルコ国民が日本に送ったメッセージです。

当たり前のことのように「友人を助け合う」という共通の想いから始まった国交ですが、その精神には心打たれる方も多いはずです。利他の精神とは「相手の、または他人の利益や便益を重んじ、自己をささげる心構え。利他を行動原則とする考え方。」とされています。

歴史の教科書やテストには出て来なかった、これらの人から人へ繋げる、私たち自身と次代を担う子供たちの日本人の誇りと精神を育てたい想いで、伝えてゆくべき正確な史実を、私たち近現代史委員会は学び、資料に残し、繋いでゆきます。

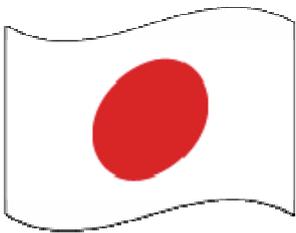
あしがき （日本人としての自信と誇りを持って生きよう）

今、自国の歴史を次世代に伝えなければいけないのは誰でしょうか？それは責任世代にある我われです。戦後70年近くになり、戦争の事を伝えてくれる人がどんどん少なくなってきました。戦争を知らない子ども達に先祖への感謝の心や思いやりの心といった、近年希薄化している大事な事を伝えていきましょう。

2014年度近現代史委員会として解釈する「日本人の誇り」とは人を思いやる心などの利他の精神や慈愛の心を根底に置いた国を想う心だと思います。私たちが今日この様にいれるのも先人がこの国を護ってくれたからです。先人は大切に残したい人、故郷、家族を守る為、命を懸けて戦ってくれました。その感謝の心を持ち私たちは日本人としての自信と誇りを持って生きていきたいと思えます。

一人一人の意識・行動の変化がきっと大きな波となる事を祈念し資料として残します。

2014年度近現代史委員会一同



編集 2014年度近現代史委員会

発刊 2014年11月